

中学校 理科



1 学習評価で大切にしたいこと

(1) 育成を目指す資質・能力を評価する学習場面の設定

理科では、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を図ります。3年間を通じて計画的に育成するために、3観点の特性を踏まえて探究の過程を通した学習場面を設定することが大切です。

(2) 「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の育成

子供自身に学習の見通しをもたせるために、学習評価の方針をフィードバックする際に、どのように評価したのかを改めて生徒と共有したりすることで生徒の学習改善へつなげることが大切です。

2 評価の観点と趣旨

下記の示す評価の観点と趣旨は、教科の目標を踏まえて作成されている中学校理科全体のものであり、第1・2分野ごとに評価の観点の趣旨が示されています。「指導と評価の一体化」を図るためには、目標と評価の関係を捉えておくことが大切です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

なお、中学校理科では「内容のまとまり（＝大項目）ごとの評価規準」を基に、各分野ごとの「評価の観点の趣旨」が示されています。「指導と評価の一体化」を図るためには、目標と評価の関係を捉えておくことが大切です。

- (5) 運動とエネルギー — **大項目**
(イ) 運動の規則性 — **中項目**
⑦ 運動の速さと向き } **小項目**
④ 力と運動

3 各観点における評価規準の作成について

知識・技能

本観点では、生徒が自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握します。また、生徒が自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けているかどうかを、行動の観察や記述の内容、パフォーマンステスト、ペーパーテストなどから状況を把握します。

思考・判断・表現

本観点では、生徒が事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握します。

主体的に学習に取り組む態度

本観点では、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているかを、発言や記述の内容、行動の観察などから状況を把握します。

「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、自然の事物現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする等、科学的に探究しようとしているかを、以下の2つの意思的な側面から評価します。

- (例) ♠ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
♥ 上記♠の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

第3学年第2分野(6)「地球と宇宙」

単元の 評価規準例	天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んで関わり(♠)、見通しをもったり振り返ったりするなど(♥)、科学的に探究しようとしている。
--------------	---

(※評価の事例については国研資料「『指導と評価の一体化』のための学習評価」中学校 理科 第3編(P.35～)を御参照ください。)